

## 第18回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和5年（2023年）3月23日（木）午後6時30分～午後7時57分

2 会 場 柏崎市役所4階 4-3、4-4会議室

### 3 出席者

- (1) 委員 16名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、大谷委員、片山委員、北村委員、小林（眞）委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村（義）委員、拝野委員、宮坂委員、山田委員、吉田委員、矢代委員
- (2) 事務局 7名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、池田学校教育課長、矢沢学校教育課主幹、伊比教育総務課課長代理、宮川主事、大矢主事
- (3) 傍聴者 2名
- (4) 報道 2名

4 都合により欠席した委員 4名 池嶋委員、小林（美）委員、中村（豊）委員、飛田委員

### 5 会議概要

- (1) 開会あいさつ 阿部会長
- (2) 報告事項
  - ① 鯨波小学校における学校統合に関する説明会
- (3) 審議事項
  - ① 学校統合説明会の所感
  - ② 日吉小と中通小の統合について質疑
- (4) その他
  - ① 次回審議会の日程  
4月27日（木） 午後6時30分から  
市役所4階 4-3、4-4会議室
  - ② その他
- (5) 閉会あいさつ 徳永副会長

### 質疑・応答

| 発言者 | 発言概要 |
|-----|------|
|-----|------|

#### 【開会あいさつ】

会 長 : 2月から3月にかけて学区再編方針に関する教育委員会の説明会が6会場で開催された。委員からも多数参加いただき感謝する。本日の審議会の中で、所感を伺うのでよろしくお願いいたします。

説明会では、賛否両論様々な意見を聞くことができた。学校がなくなる地域については、地域によるおおよその受け止め方・考え方の違いが見えた気がするが、説明会という場では発言しづらい意見もあるように思う。先般の説明会だけで地元の意見を十分に聞けたとは思っていない。今後も地域関係者、保護者の声を聴き、地元の意向をしっかりと把握していきたい。昨年度は

会長、副会長が地域へ意見を伺いに行ったが、その意見を審議会で十分に共有できなかったように思うので、今年度は会長、副会長の他に、何人かの委員にも加わっていただくなど方法を工夫したいと思っている。5月以降になると思うが、計画を進めていくのでよろしくをお願いします。

本日は、説明会の所感と、日吉小と中通小の統合に関する質疑意見を中心に進めていく。

#### 【報告事項】

会 長 : 報告事項として、鯨波小学校における学校統合に関する説明会について、事務局の説明を求める。

事務局 : 2月27日に、鯨波小地域への説明会を行ったが、その中で保護者から学校教育に関する質問や意見が多数寄せられたことを受け、3月13日に再度鯨波小のPTAに説明会を行った。説明会の中でも、剣野小学校についていくつか質問があった。「学級崩壊があるのではないか」「子どもの環境が悪いのではないか」「自分の子どもが6年生という多感な時期に環境に疑問のある剣野小へ統合すると不安だ」といったものである。教育委員会では、以前から剣野小学校の状況は聞いており、実態の把握に努めた。今回改めて剣野小学校へ確認したところ、以前は学習環境に疑問のある時期もあったが、教職員の努力で改善しているとのことであった。また、新年度にはクラス替えを行い、担任の配置を含めて配慮をするため安心できる状況にある。

今回剣野小学校という特定された学校についてこのような指摘を受けたが、学習環境の課題は、市内の他の小・中学校にも存在する。教育委員会では状況は把握しており、解決すべく継続的に取り組んでいる。学校の状況は統合の時点は分からないので、今の学校の状況で統合の可否を判断してほしくない。

3月13日の説明会の際、保護者からグループ討議をしたいと提案を受け、10人ほどで2グループに分かれて意見をまとめていただいた。

反対意見としては、「自分は鯨波小の卒業生で、子どもが現在2年生である。子どもが卒業するまで学校を残してほしい」「季節ごとの豊かな体験活動、地域住民の協力、自然を活かした特色ある活動等、鯨波の良さをもっとアピールしたい。統合ありきではなく、地域の良さを分かってもらいたい」「剣野小の児童クラブは規模が大きく、運営が大変と聞いているので不安だ」「鯨波小で教員をしていたが、鯨波小はとて素晴らしい学校なのでなくしたくない。地元の特徴ある学校として残すべきである」「統合の年に子どもは6年生となり、環境の変化についていけず不登校になるかもしれないといった不安がある。また、審議委員には鯨波出身者がいないので、地域の意見が届かないのではないかと不安である」との意見があった。最後の意見については、今後審議会が地域との意見交換会を開催するので、その際に意見を言っていたきたいと伝えた。

また、賛成意見としては、「子どもが剣野小と合同ミニバスチームを組んでいるので、剣野小に対して抵抗感はない。市の考えが理解できないわけではない」「統合するのなら、大洲小統合検討の際と同じ時期まで年数を延ばしてほしい」との意見があった。

会 長 : 今の報告について、質疑はあるか。

質問はないようなので、本日の審議に移る。次第に記載はないが、報告が1つある。今回の剣野小、鯨波小、米山小の統合案について地元関係の市議会議員に話を聞いた。佐藤正典議員、山本博文議員である。

佐藤議員の居住地は大洲小学校区である番神だが、出身は鯨波であり、鯨波小の卒業生である。2月27日に開催した鯨波コミセンの説明会にも参加していた。

山本議員の居住地は米山小学校区である上輪新田であり、米山小卒業生で

ある。2月28日に開催した米山コミセンの説明会にも参加していた。

両議員から出た意見を紹介する。

佐藤議員からは「基本的には統合について否定はしないが、地域の要望をできる限り聞いてほしい」「思ったより統合に反対が多く、戸惑っている。鯨波小の全校児童数は現在30人ほどを推移しており、今後も大きく変わらない見込みであるため、このまま閉校していいものかという気持ちもある」「積極的に鯨波小に通わせている保護者もいると聞いた」「鯨波には、かつて県民少年団があり地域と子どものつながりが深く、地域で学校を支えている気持ちが強いので、そういった意味で反対している方が多いのではないか」との意見を頂戴した。また、佐藤議員の居住地が大洲地区であることから、大洲地域の意見を聞く機会が多いとのことで、いくつか意見を頂戴した。大洲小の関係者からは「大洲小にもいずれ統合の話ができることが心配である。大洲小が統合するときには、剣野小、鯨波小、米山小の3校が統合した後の剣野小の子ども達が三中へ進学する。その際に、大洲小の子ども達が飲み込まれてしまうのではないかと不安だ」との意見があるという。

次に山本議員の意見である。「米山小がなくなることは残念だが、基本的には統合は致し方ない」「新入生が1人2人である入学式を見ていると、この状況で学校行事が成り立つのか疑問である」「学校関連の地元の活動も行いづらくなっており、地域もそれを実感している」「米山コミセンでの説明会では、絶対的な反対の声はなかった」「米山小はほとんどの地域でスクールバスを利用しており、スクールバスに慣れている」との意見を頂戴した。また、市への要望として「学校がなくなった場合、地域住民の拠り所を作ってほしい」との意見もあった。

前回の統合計画の際、米山は反対意見多数で統合を見送った経緯があるが、その件については「前回の統合案が示された時から世代交代が進み、時間がたったことから、強い反対意見がなくなっている」との見解だった。

以上が、両議員に話を聞いた際に出た意見である。

それでは、3審議事項の(1)学校統合説明会の所感に入る。今回、説明会で半数以上の委員に出席いただいた。出席された委員から、感じたこと、改めて分かったことなどを発言していただき、全委員へ共有したい。

委員： 中通地区の説明会では、統合に対して賛否をはっきり明言される人は少なかったように思う。保護者が「統合はしたくないが、致し方ない」と発言されていたが、それが地域の総意なのではないかと感じた。

日吉小での説明会では、中通地区を思いやる発言があり、印象が良かった。日吉小地区ではどんな意見があるのかという事務局の質問に対し、長崎新田の町内会長が「逆に中通地区で出た意見を聞かせてほしい」と発言したことに非常に思いやりを感じた。

鯨波地区に関しては、適正配置に関する指摘、統合の不公平さに関する発言が見られたが、これはどの地区にも当てはまるもっともな意見と感じた。郊外から学校がなくなり、中心部に集まるのが適正配置なのかという意見、人数が少ない学校が多い学校へ統合されるのは不公平という意見、いずれももっともな意見と感じた。

委員： 対等な統合のはずだが、大きい学校は受け入れ態勢が強いと感じた。  
委員： 4コミセンの説明会に参加したが、全体を通して、受け入れ側は統合について他人事のように捉えていると感じた。市から、統合後に使用する校舎として自校を提示されているため、統合しても校舎は変わらないし学校は残り続けると考えているのではないかと。剣野小学校の次期PTA会長が「受け入れ側としてどのように受け入れ態勢を作っていけばいいのか焦りを感じている」との発言が印象的であった。その気持ちを他の地域にも持ってほしい。

校舎利用校が明示されているので、受け入れ側は学校がなくなる心配もな

く、統合に関する興味も薄いように思う。市教委には、統合計画を年に1回程度該当校へ提示するなどして、話題提供をしてほしい。

先日、地元美容室で統合の話題が出たが、その際「瑞穂中と西山中の統合はなくなったと思った」との発言を聞いた。高柳小と鯖石小の統合、五中と東中の統合についての答申が出たことで、その他の学校の統合問題は終了したと思われているようだ。PTA総会等で改めて統合について提示すべきである。該当校には当事者意識を持ってもらわないといけない。

また、説明会等でも保護者から「自分の子どもが卒業するまで統合を先送りしてほしい」との意見が出てくるが、自分の子どもが良ければそれでいいのか。その下の子ども達なら統合しても構わないのか。そのような意見が出てくるのが残念に思う。統合問題は地域全体で考えていくべきであり、当事者意識を持ってもらえるような意識づけを市から行ってほしい。

委員：説明会に参加された方の中には、複式学級の意味が分かっていない人もいたようだ。私も審議会に参加してから、複式学級や加配教員について理解ができるようになった。人員配置などは県教委も絡む話であるが、事情が分からない人からすれば、市教委に言えば意見が通ると思っている。まず、学校教育の仕組みから説明していかなければならないのではないのか。

会長：年に1回程度、統合に関して情報を提示し、意識づけを行ってほしいという意見、教育用語や学校教育の仕組みについての説明を行っていきべきという意見について、事務局から何か説明はあるか。

事務局：年に1回程度、統合に関する情報を発信することについてだが、高柳小と鯖石小、五中と東中の答申は4月の広報かしわざきに掲載する。これから検討を行う統合計画は何らかの形で提示しなければならないと思っているが、新聞報道等で掲載されているため話題としては十分に出ていると思う。

受け入れ側の意識について、過去のこんな例がある。高柳小と門出小が統合する際の統合説明会では、門出地域のほぼ全員が出席したが高柳地域の出席者は数えるほどしかいなかった。受け入れ側の意識が薄い様子は、昨今の説明会と同様であり、双方の意識の差は昔から続いている。このような状況は何とかしなければならぬと考えている。

また、学校教育の仕組み等はしっかり伝えていきたいが、100%伝えるのは厳しい。分からないことがあれば、その都度質問に答える。昨年よりも時間的に余裕があるため、説明会の回数を増やしていきたい。

委員：当事者である保護者は忙しく、新聞を読む時間がない。新聞というツールは、地域の方には効果があるが、若い世代には効果が薄い。過去の広報のコピーでもいいのでPTA総会の配付資料に混ぜ込むことはできないか。説明会は必要ない。統合の話はまだ現在進行形で進んでいることを周知してほしい。たった一度広報に掲載しただけで周知が足りていると思っているのか。

事務局：足りているとは思っていない。何らかの方法で周知を考えていきたいので、この案件は持ち帰る。

委員：新年度に入り、新入生が入学してくる季節である。この機会に若い世代へと周知してほしい。

委員：昨年、東中の説明会の前に審議会内で意見をまとめ、地域からの質問に臨もうとした際、それが新聞報道されてしまった。報道の内容を誤解した保護者が多数いたことで、東中の保護者が説明会に全く参加しなかったという失敗例がある。メディアの報道の仕方に意見するつもりはないが、メディアの報道とは別に市教委からの説明は必要である。このような会議や説明会の際の市教委の姿勢は、決まりきった返答しかしない。質問されたことについて返答していけば、統合の問題は解決すると思っているのではないのか。そうではなく、十分な説明を先にしてから、それについて意見を求めるスタンスに変えていかないと地域の同意は得られない。市教委の姿勢を変えていくよう検討してほしい。

会長：前回の審議会でも、統合の組み合わせが議論となったが、説明会では組み合わせについての意見はほとんど出なかった。中通コミセンでの説明会で、楨

原小と統合することについての意見が僅かに出た程度であり、上米山コミセンでの説明会にいたっては、大洲小との統合はしてほしくないとの意見が出た。今回の説明会を聞いた限りでは、組み合わせについての強い意見はないように感じた。

剣野小、鯨波小、米山小の統合案については、同じ統合される側の考えでも、全く違ったものであったと思う。鯨波地区では統合に反対する意見が多く、米山地区では統合も致し方ないという意見が多かった印象だ。上米山地区では、保護者の中に強い反対の人がいたが、地域としては統合後についての質問が多く、統合も仕方ないといった印象だった。上米山地区は、一度統合を経験していることから、抵抗感はないのだろうと感じる。

説明会の所感については以上とする。

次に、日吉小と中通小の統合について質疑を行う。

説明会を聞いたうえで、賛否も含めた意見、質疑等あれば伺いたい。

委員： 統合対象校の見直しについて確認したい。前回の審議委員会で組み合わせの話がでたが、審議会としては中通小と日吉小の統合について諮問を受けたのでその2校について考えていくべきとは思ふ。しかし、私個人としては中通小と日吉小に加え、榎原小も含めて考えるべきではないかと感じている。前回の審議会でも、事務局から現在提示している統合案について審議してもらいたいと言われたが、学校の組み合わせについては考える余地はないのか、それとも組み合わせも含めて協議できるのか。

事務局： 提案は受け入れるが、今の方針を協議いただきたいので、現段階では榎原小を含めた統合案は考えていない。令和12年度までの計画の中で考えていただきたい。その先のことはまだ分からないので、今提示している統合案について協議していただきたい。

会長： 今の組み合わせで諮問を受けているので、その中で検討してほしいという事務局の考えはわかる。しかし、答申は色々な選択肢があり、答申に反映するかはわからないが今後協議できないということはない。ただ個人的な意見としては、組み合わせの問題については今のところ地域から強い意見がなく、学校施設や教室数のことなど、今回の統合案に榎原小、大洲小を含めなかった事務局の説明は納得できる。また、市教委の統合案は長期的な計画ではなく、今後10年を見据えたものである。大洲小や榎原小を含めた統合は、長期的な計画となるため再編方針そのものを見直さなければならなくなる。例えば榎原小を統合に含めるとすると、施設規模のことを考えれば新しく校舎を作らなければならないと思う。審議会でそこまでの答申はできない。組み合わせについて協議はしても、答申に反映することは難しい。

委員： 今のような吸収統合ではなく、組み合わせを考えることにより新設校を作る統合となれば対等な統合になる可能性があるのではないかと。今の組み合わせでも対等な統合になるなら、そこまでこだわる人もいないと思う。

統合準備委員会で、校名、校歌、校章を決めるとのことだが、少人数の学校の意見も反映されるのだろうか。組み合わせの問題は、統合準備委員会の進め方にも関係してくるのではないかと感じた。

委員： 個人的な意見だが、大規模校に小規模学校をくっつけるのではなく、小規模校の特色や学校ごとのスタイルを残しながらの統合が必要だと思う。子どもの人数が減っているのに、学校を減らしていかなければならないことは理解しているが、先を見据えて子どもの人数が減少しそうなところをただ単にくっつける統合にはしたくない。

会長： それは、中通小と日吉小のことか。

委員： 中通コミセンでの説明会は参加しておらず、地域の意見は聞いていないので、中通小と日吉小のことではない。高柳小と鯖石小の統合の際、高柳小という財産を残せなかったことを非常に残念に思っているが故の意見である。その反省も含め、自然が多く、中心部からでも通いやすい小規模校を残して

いけないかと考えているので、そのような視点をもって審議ができないものかと思っている。

委員：小規模校は地域活動が活発であり、誇りを持っている。統合される側には子どもの人数が減って統合もやむを得ないと思う意見もある一方、受け入れ側は統合しても現状と何も変わらないと思っている人ばかりである。平等な統合なのだから、校章も校歌も変わる可能性があるのに、説明会の参加者はともかく、不参加の地域住民は無関心な人が多いのではないか。統合される方は、学校への愛着はずっと持っている中で考えている。

会長：受け入れ側が無関心であるという問題は、昨年の東中の説明会でも感じたことである。参考までに伺うが、鯖石小と高柳小の統合準備委員会の状況を教えてほしい。

事務局：校名、校歌、校章については、現在は全体会の中で話し合っている。次回、4月20日に4回目の統合準備委員会が行われるが、そこで決定できればと思っている。前回の統合準備委員会では、高柳小PTA以外は校名について、現状のままで良いと言っていた。高柳小PTAは、できれば校名を変えてほしいという意見を持っているようだ。最終的には4月20日に決定できればと思っている。

委員：2つの学校、異なる地域が一緒に話し合うときに、意見が真っ向対立することもあると思う。その際、誰が仲裁するのか。受け入れ側の意見が優先的に採用されてしまうのではないか。意見が割れた場合、どのように決めるのか。

事務局：統合準備委員会では、委員長1名、副委員長2名を選出しており、さらに地域ごとに同人数を委員として選出している。意見が分かれた時は、話し合いで出た意見をまとめた上で、最終的に統合準備委員会の委員長が決定することとなっている。市教委が決めることはない。

委員：委員長はどの地域の人か。

事務局：今回は鯖石小の方である。

委員：委員長はどのようにして決定したのか。

事務局：皆様に打診したところ、最終的に受けてくださったのが鯖石小の方だった。

委員：先日、高柳小の保護者から統合準備委員会の意見を聞いた。高柳地域は対等でいたい、鯖石地域はそう思っていないようでつらいとのことだった。高柳地域は断腸の思いで今回の統合を受け入れ、双方の良いところを取り合って、良い環境の学校を作りたいという思いがあり、校名、校章、校歌についてはそこまで重要視していないと聞いている。高柳地域と鯖石地域では温度差があり、なかなか話し合いがうまく進まないという声も聞いた。統合は対等であるべきと思う。統合について、受け入れ側も対等であることを市教委からよく説明しなければ、統合される側が切ない思いをしてしまう。今後統合の検討を進めていく地域には、しっかりと説明をしてほしい。

会長：委員（個人名）は五中と高柳中の統合準備委員会の際、関わっていたと聞いている。校名、校章、校歌等どのようにして決まったのか。知っていたら教えてほしい。

委員：五中と高柳中のPTAは、互いの学校のことをよく理解していたので、寄り添い合いながら決定した。対等な統合として互いの良いところを残しつつ新しく学校を作ろうという意思の下、制服や体操着などは子ども達の意見を聞き、双方ともに意見を出し合いながら決めた。PTA会則も、高柳中の内容の方が良かったので、話し合いながら決定した。考え方も同じだったので、特に揉めることなく話を進めやすかった。

会長：対等な統合とはいえ、過去に統合決定した学校で校名が変更された例はほとんどない。受け入れ側の校名、校章のまま統合に至っているケースが多いので、今も受け入れ側の意識が低いと思われる。審議会でも受け入れ側の関心の低さについて懸念しているので、市教委にはもっと対等な統合であることを周知し、アピールしてもらいたい。

- 事務局： 説明会の際には、統合準備委員会の概要を伝え、その中で校名、校章について検討していただきたい旨も伝えたい。
- 個人的意見だが、鯖石小と高柳小の統合準備委員会では、鯖石地域は高柳地域に対し、非常に思いやりを持って接している。寄り添って考えているからこそ、未だに校名、校章が決まっていないのだと思う。統合される側に比べると受け入れ側の意識は低いかもしれないが、ただ単に「来ればいい」と思っているわけではない。鯖石地域はそのような薄情な地域ではないので、皆様にはご承知おきいただきたい。
- 委員： 地域によって受け止め方は違うと思う。鯖石地域は高柳地域に寄り添っているが、剣野地域は「こちらは受け入れ側だから、統合が決まった後に準備をすればいい」という意見が多い。地域はそう思っているようだ。校名が変わることが分かれば、地域は真っ先に動くだろう。未だに理解していない人が多い中、どのように周知していくのが課題となる。
- また、先ほどの「小さい学校を残すべき」という意見についてだが、小学校1校がエスカレーター式に1校の中学校に上がるとなると、小中同じメンバーで9年間を共に過ごすことになる。小学校から中学校へ進学することは、大きな変化であり、例えば2つの小学校が同じ1つの中学校に進学すれば、違う環境で6年間育ててきた子ども達と一緒にになり、交友関係が変化する。これは子ども達にとって良いことだと思う。小学校で人数が少なくとも、1つの中学校に集結すれば、子ども達の精神的な成長に繋がると思っている。統合は人数の問題だけで考えてはいけないと思う。子どもには成長段階がある。今、いじめなどの交友関係で悩んでいたとしても、複数校が中学校で集まれば新しい交友関係が築ける。9年間同じだと、そのような機会を失ってしまう。
- さらに、保護者と地域の考えの違いがあるが、地域は学校がなくなると地域の衰退に繋がると考えている。学校を核として地域づくりを行ってきたので、学校がなくなってしまうらどうしたらいいのかという困惑の気持ちが強いのだと思う。地域は地域づくりのことを考えている。統合は地域づくりと、子どもの精神的な面も考えて決定しなければならない。
- 委員： 高柳小と鯖石小の統合準備委員会の話に戻る。鯖石地域は高柳地域に寄り添っているというが、受け入れる側と統合される側で心の余裕が違う。鯖石小に準じなければならないとしたら、高柳小の子ども達は市から援助もないまま体操着から何から新しく買い直さなければならない。五中と高柳中のように、制服や体操着等全て変更するのなら、双方話し合っってより良い学校にしていこうと思えるかもしれないが、高柳ばかりに負担を課すと反発は大きいと思うし、聞いていて切なく感じる。精神的な負担に加え、金銭的な負担も多い。鯖石地域が寄り添ってくれているとはいえ、高柳の感じている負担も考えてもらいたい。今後どうなっていくのか不安である。
- 事務局： それを考えるのが統合準備委員会であり、現状はそこまで考える段階に至っていない。今後、統合準備委員会でその面を含めて検討していく。
- 委員： 日吉小と中通小の件だが、中通小の方が人数は少なく、日吉小の方が多い。統合すれば、中通小の方が少数派になる。統合した後も日吉小の学級数は6つのままで、1学年1学級で変わらない。
- 剣野小の学級崩壊を心配する保護者がいるとの話で、教職員の努力により改善しつつあるといった明言を避けた言い方だったが、何か問題があった時、具体的にどんなプランを実施してどんな効果があったのかを統合前に保護者に説明する予定はあるか。
- 事務局： 心配は分かるが、実際に子どもが落ち着かなくなった場合にどのような方法で解決するのかという術を教職員は持ち合わせている。市教委へ学級崩壊などの報告が上がった場合、市教委でどの程度対応でき、どのような人的支援をするべきかを検討する。その際には市教委に配属している特別支援教育担当の指導主事を学校へ派遣して教員と共に対処を示し、学校と一緒に対応していく。しかし、そのことを統合説明会で積極的に話さない。悪い状況

- が起こる前提で話をする必要はないと考えている。
- 委員： 落ち着かない程度とは、授業中勝手に出て行ったり、急に暴れだすようなことを指すと思うが、それを抑えるには1人ずつに補助員をつけなければならないだろう。しかし、1人ずつに補助員をつけることは難しいと思う。鯨波小まで学級崩壊の噂が広がっているということは、実際に相当ひどい状況なのではないか。環境が悪いことが前提になるので積極的に説明しないというが、統合した後に落ち着かない環境であることが分かれば「こんな状況なら統合したくなかった」と思う保護者は多いだろう。可能性の話で、悪い状況になった場合の対応策を伝えれば、保護者は安心するだろうし、その面に関しての保護者の不安は多少払しょくされるのではないか。保護者に安心感を与えるため、問題があった時の対応について説明をしてほしい。
- 事務局： 統合が決まると、複式解消と子ども達の心のケアのため加配教員が配置される。加配教員が積極的に子ども達の様子を見て、子どもの精神が安定するよう、安心感をもって学校生活を送れるようにサポートをしていく。人的配置も含めて安心できる体制を作っていくと、保護者に説明していきたい。
- 委員： 日吉小のPTA対象の説明会には、参加者はいたか。
- 事務局： 参加者はいた。
- 委員： 日吉小での統合説明会の際、保護者から「自分の子どもの学年が対象ではないので興味はない」「自宅が中通小地区と日吉小地区の境目にあるので、統合すればスクールバスに乗せてもらえるのか」といった意見が出ていた。統合される側の気持ちは考えず、統合すれば受け入れ側にも何かメリットはないのかといった雰囲気を感じた。PTA向けの説明が終わったのであれば仕方ないが、日吉小の保護者に対し、統合とはどのようなことなのか改めて伝えなければならないと思った。
- 事務局： 日吉小学校区はスクールバス対象になるくらい広いのか。
- 事務局： 学校から2.5キロ以内の地域のため、スクールバス対象の地域でない。
- 事務局： 日吉小の説明会の後、PTAと話したが、確かにPTAの意識は低く、保護者自身も感じていた。統合問題に関してもっと働きかけていかなければならないと思うが、PTAからは「統合に対する中通地域の意見はどんなものだったのか」といった中通地域を思いやる意思もあった。これからPTAが話し合いを重ねて、統合に関する意識を高めていってもらいたい。
- 会長： 先ほどのスクールバスの話は、距離の問題ではなく、自分の地区が今度1人になって集団登下校ができなくなるのでスクールバスに乗せてもらえないかという話であったと思う。

#### 【その他】

- 会長： 次回の審議は、剣野小、鯨波小、米山小の統合について審議を行う。事務局から次回審議会の日程について説明を求める。
- 事務局： 次回の審議会は、4月27日（木曜日）午後6時30分から市役所4階4-3、4-4会議室で行う。

以上、相違ないことを確認する。

令和5年（2023年）4月27日

会長 阿部 義章

副会長 徳永 優子